



舞鶴医療センター便り

薬の正しい使い方

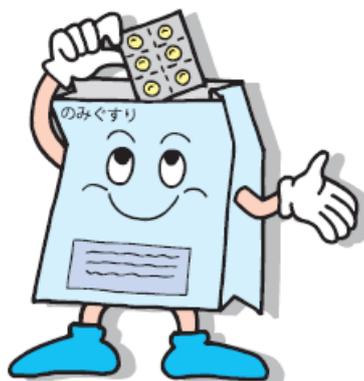
医薬品の定義

医薬品とは何かは、「薬事法」という法律で決められています。医薬品には、「医療用医薬品」と「一般用医薬品」があります。類似するものに医薬部外品や化粧品があります。

医薬品 	病気（疾病）の診断、治療又は予防に使用されることが目的とされているもの。
医薬部外品 	積極的に治療に用いられるものではなく、吐き気等の不快感、あせも、ただれ等の防止を目的として使用されるもの。また、口臭、体臭、脱毛の防止、育毛、除毛等の美容目的に使用されるもの。人体に対する作用が緩和なもの。
化粧品 	人の身体を清潔にし、美化し、魅力を増し、容貌を変え又は皮膚若しくは毛髪を健やかに保つために使用されることが目的とされているもの。人体に対する作用が緩和なもの。

医療用医薬品

医師・歯科医師の診断を受け、処方せんをもらいます。その処方せんを薬局に持っていき、薬剤師から「薬」を購入します。

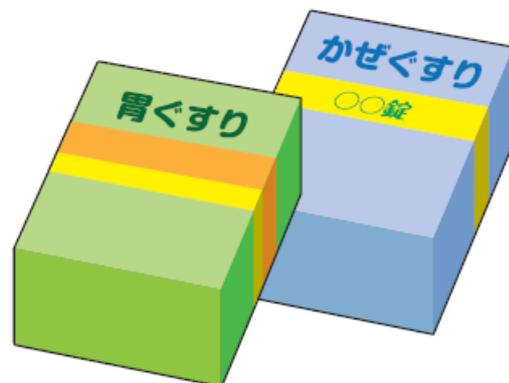


医療用医薬品は、医師・歯科医師の診断によりあなたのけがや病気の程度にあわせて種類や量が決められます。

病院などで医師・歯科医師によって直接又は指示に基づいて使用されたり、渡されたりすることもあります。

一般用医薬品

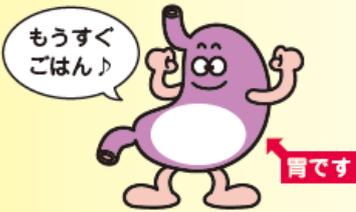
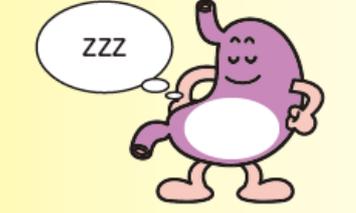
薬局や薬店・ドラッグストアなどでは、様々な場所に「薬」が置いてあります。その際に、薬剤師などの「薬」の専門家の助言を得て買うこともあれば、自らの判断で「薬」を選んで買うこともあります。



一般用医薬品とは、一般の人が、薬剤師などから提供された適切な情報に基づき、自らの判断で購入し、自らの責任で使用する医薬品です。

軽度なけがや病気に伴う症状の改善や生活の質の改善・向上などを目的とするものです。

薬を飲む「食前」「食後」「食間」はどのタイミング？

食 前		<p>食事の前30分～60分間のむ薬です。</p> <p>空腹で胃が空であり、胃酸の分泌が少ない時間です。食物や胃酸の影響が少ないので、一般的に医薬品の吸収が速く効果も早く出るといわれています。食事をするのが前提になるので食事と関係がある病気の治療などに使われるケースも多く見られます。このタイプの医薬品には、吐き気止め、食欲増進薬、漢方薬、糖尿病薬等があります。</p>
食 後		<p>食事の後30分以内のむ薬です。</p> <p>内服薬では、一般的なのみ方と言えます。胃の中には食物が多くあり、消化のために胃酸も多く分泌されています。このため、医薬品による胃への刺激が少ないので比較的胃を荒らさず、医薬品ののみ忘れを防ぐ効果もあります。</p>
食 間		<p>食事の後2時間程度経過してからのむ薬です。</p> <p>胃の状態としては食前と同様ですが、治療目的としては食事との関係は少なくなります。胃に食物のある「食後」では吸収がよくない漢方薬等でこの時期を指示されることが多いようです。しかし、のみ忘れには注意が必要です。</p>

のむ時間は、これ以外にも食事直前等のようにもっと細かく決められている場合もあります。これらは、医薬品が安全かつ最大限に効果を発揮するための大切な約束事ですから、使う前には必ず確認が必要です。分かりにくいときは、医師、歯科医師、薬剤師等に尋ねることが大切です。また、のみ忘れたときの対応なども聞いておくとよいでしょう。

● お薬手帳って知っていますか？ ●



薬局では、医薬品の説明をよく聞きましょう。もしわからないことがあれば、質問しましょう。

「お薬手帳」は、あなたが今までに使用した医薬品の名前や使用量などを1冊の手帳にまとめて記録するものです。この記録を用いることにより、医師、歯科医師、薬剤師は、あなたがどのような医薬品をどのくらいの期間使っているのかを知ることができます。「お薬手帳」を提示することで、医薬品の重複を確認したり、相互作用を防止することができます。

「お薬手帳」については、かかりつけ薬局に、相談してください。

(文責：薬剤部 井上 敦介)

発行元：舞鶴医療センター 広報委員会